

神々の古事記
本殿（正殿）

「八十神との戦い」

素戔嗚尊より六代後の子孫である大国主神には、八十神と言われるたくさんの異母兄弟がいました。この八十神が八上比売を妻にしようとして稲羽に出かけましたが、あっさりと断られてしまいました。その上、弟の大国主神が夫に選ばれたことに皆腹を立て、殺してしまおうと相談を交わしました。そして、稲羽から帰る途中、真っ赤に焼けた大きな石で弟を焼き殺してしまいます。が、その事を聞いた母神が高天原に願いでて生き返らせませす。すると今度は大きな樹の間に挟みこんで殺しますが、再び母神によって助けられます。母神は、大国主神を木の国の植樹の神さま大屋毘古神のもとに逃がしました。そして、そこから根国へ行きなさいと命じました。



廣峯神社の本殿（真ん中）には、主祭神である素戔嗚尊と、その御子神である五十猛尊（大屋毘古神）が祀られています。

五十猛尊は、父神である素戔嗚尊と一緒に高天原から新羅国に天降りしましたが、そこでは暮らさずに日本に渡ってきました。

その時、多くの木種を持っており、国土全体にその種を植えられたので、日本は樹木が茂る緑豊かな国になりました。

一般には植樹の神さまとして信仰されていますが、廣峯神社では素戔嗚尊が農耕の神さまであることから、木工品（農機具）の神さまとしても信仰されています。